

USHIODA GENERAL HOSPITAL



病院見学受け付けています

土日、祝祭日を除き、随時受け付けています。
必要に応じて宿泊先の手配もいたします。
申し込み：汐田総合病院 医学生担当
〒230-0001 横浜市鶴見区矢向 1-6-20
TEL：045-574-1485（医局直通）
Mail：igakusei@ushioda.or.jp



汐田総合病院
実習申込みはこちら



神奈川県民主医療機関連合会

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 3-35-1 第2 米林ビル 5F
TEL：045-320-6371 FAX：045-320-6374
E-mail：igakusei@kanamin.or.jp

<https://www.kanamin-doctor.jp>

■ 卒後臨床研修評価機構
■ 認定病院
Japan Council for Evaluation of Postgraduate Clinical Training
JCEP

汐田総合病院 初期研修のご案内



汐田総合病院



理念

医療・福祉・介護にわたる総合的なサービス提供を通して、患者様との協同、患者様と共につくる医療、信頼・納得の医療、無差別平等を追求します。

基本方針

地域の総合病院として、かかりつけ医療機関としての役割を果たします。地域住民、かかりつけ患者様への救急医療に24時間対応します。保健・予防から急性期、リハビリ、療養期、在宅支援まで、総合的な医療とケアを実践します。生活能力の回復までを視野に入れた高齢者医療を充実させます。総合病院としての専門性追求と地域連携で地域住民の健康を守ります。

施設概要

汐田総合病院は1953年に開設された横浜市鶴見区にある319床の総合病院です。地域の総合病院として初期治療・救急・回復期・終末期ケア・在宅医療にいたるまで幅広い医療を展開しています。

診療科目

内科（一般・呼吸器・循環器・消化器・糖尿病）／神経内科／小児科／精神科／外科／整形外科／脳神経外科／婦人科／皮膚科／耳鼻咽喉科／眼科／歯科・口腔外科／泌尿器科／リハビリテーション科／麻酔科

病床数

319床（一般病床104床、回復期リハ58床、地域医療包括ケア病床157床）

職員構成

医師39名／薬剤師13名／看護師（助手含）193名／介護福祉士17名／作業療法士20名／理学療法士49名／言語聴覚士15名／検査技師14名／放射線技師13名／臨床工学技士2名／管理栄養士4名／調理師4名／ソーシャルワーカー8名／視能訓練士1名／事務48名（2021年7月現在）

病院認定・関連施設

日本医療機能評価認定病院（Ver1.2014年10月取得）副機能：リハビリテーション病院（Ver1.0）／基幹型臨床研修指定病院／協力型臨床研修病院（川崎協同病院・立川相互病院・大田病院・済生会横浜市東部病院・神奈川病院）／卒後臨床研修評価機構認定病院／日本脳神経外科学会専門医認定制度による指定訓練場所／日本脳卒中学会研修教育病院認定施設／日本神経学会専門医制度教育施設／日本認知症学会専門医教育施設／日本内科学会認定医制度教育関連病院／日本外科学会専門医制度関連施設／日本整形外科学会専門医制度研修施設／日本眼科学会専門医制度研修施設／日本消化器内視鏡学会指導施設／救急告示医療機関／JCEP（卒後臨床研修評価）4年認定（2019年5月）



汐田総合病院 神経内科
研修管理委員長
院長 宮澤 由美
香川大学卒

公益財団法人横浜勤労者福祉協会グループ

うしおだ診療所

みどり野診療所

梶山診療所

清水ヶ丘セツルメント診療所

老人保健施設やすらぎ

うしおだ在宅クリニック

うしおだ訪問看護ステーション

うしおだ介護支援センター

ヘルパーステーションうしおだ

ヘルパーステーションみどり野

うしおだケアサービス

小規模多機能施設こすもす

ハイムさざんか

ハイムつばき

ハイムさつき

グループホーム菜の花の家

グループホームひまわりの家

ACCESS

尻手◀約14分▶羽田空港

尻手◀約10分▶横浜

尻手◀約20分▶東京

尻手◀約33分▶渋谷

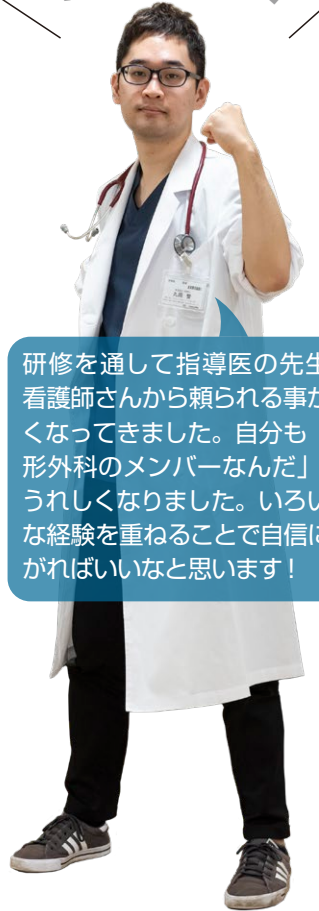


汐田総合病院で研修をする
丸岡先生の1日に密着！

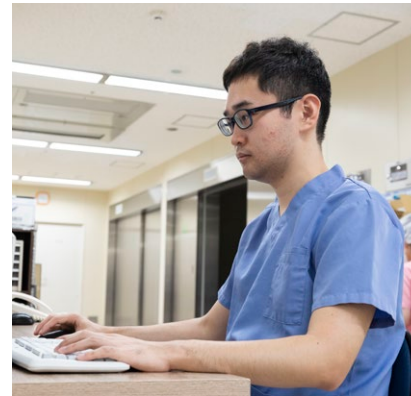
研修医の1日

整形外科編 丸岡 誉 医師
北里大学医学部卒

がんばるぞー！



研修を通して指導医の先生や看護師さんから頼られる事が多くなりました。自分も「整形外科のメンバーなんだ」と、うれしくなりました。いろいろな経験を重ねることで自信に繋がればいいなと思います！



カルテチェック

8:00 ▶ 出勤

通常は8時半の始業にあわせて出勤します。カンファレンスや採血があるときはもっと早めに来ています。

9:00 ▶ カンファレンス

カンファレンスでは整形外科だけではなく、脳外科の先生も加わり、患者さんの治療方針を決めます。その後、回診の前に患者さんのカルテチェックを行います。

10:00 ▶ 病棟回診

病棟回診では“患者さんが何を求めているか”を事前に把握して回診するようにしています。専門的にパーツを診るのが大学病院、生活を含め全身の管理をしていくのが市中病院の役割だと研修の中で感じています。

12:30 ▶ 昼食 勉強会

昼食は医局でとります。どの科の先生もとても仲がよく楽しい職場です。

週に1回、研修医のための勉強会も昼に開かれています。テーマを設けて指導医がレクチャーをしてくれます。また、コメディカルのレクチャーもあるので勉強になってます！

14:00 ▶ 手術 訪問診療

いろいろな手術に立ち合って、指導医の先生の技術をしっかり学んでいます。傷の洗浄や縫合などは研修医に任せられています。手術を重ねていくと自然と度胸がついてきますね。



手術前の準備



多職種カンファレンス



研修医勉強会

Another day

訪問診療にも同行します。

整形外科でも患者さんの生活が見えてくるので、貴重な体験ができていると思います。

※整形外科ではうしおだ在宅クリニックの訪問診療に同行する研修を行っています。



手術後やカンファレンス後の空いた時間は指導医の先生にクルーズをしてもらっています。マンツーマンで何でも聞けるので、とても有意義な時間となっています。

17:00 ▶ 終業 退勤

今日は友人とご飯を食べに。プライベートの時間もしっかりとれているので充実しています！



汐田総合病院のこと・研修のこと 教えてください

研修の状況を振り返るために毎月『研修医ミーティング』（以下、MT）を行っています。どんな振り返りをしているのでしょうか？

河野：1ヶ月毎の研修をパワーポイントでプレゼンテーションします。研修医全員がやるので、他の研修医がどんな研修をしてきたのか知ることができるので、自分の研修を評価する上でも役立ちます。また研修環境、研修プログラムなどについても気になったことがあれば発言して、研修をより良くしようとみんなで話し合える場でもあります。

熊坂：初期研修では、習熟度や態度も含め“評価”されると思うんですけど、“評価”ではなく、話し合って“共有する”事に重きが置かれています。指導医の先生が教育的な視点からMTを位置づけてくれています。

河内：ピリピリしたムードではなくとても和やかな雰囲気の中で言いたい事を自由にいう事ができ、提起された問題について研修医みんなで考えることができます。他院から研修に来ている先生は和やかさに驚いていますね。

丸岡：発表スライドをどう作ればうまく振り返れるのかを指導医の先生が教えてくれるので、シンプルかつ明確に振り返りができます。こういった自分の振り返りをまとめたり、発表することも成長につながっていると感じています。



弘前大学卒
熊坂耕平
医師

河野：主体的に研修することも大切なので、研修に取り入れてほしいこと、改善点もここで相談しています。エコーや検査キット、シュミレーターの導入、待遇のことまで積極的にMTで提案してきました。研修医としての意見をまとめて、実際に改善してもらった事も多かったです。研修医の意見もしっかり尊重してもらえると嬉しいところですね。

熊坂：実際にCV挿入などで使える新しいエコーを導入してもらうためにMTで話し合い、予算をとって買ってもらえた事はよかったと思います。自分自身もいい研修がしたいですし、今後入ってくる研修医のためにもできることはやっていきたいですね。

学生時代に思い描いていた研修医像と実際に研修医になってみてどうですか？

河内：医学的知識だけでなくコミュニケーションをとる事が自分の想像した以上に大切だと感じています。上級医とはもちろんですが、日々患者さんと接している看護師さんは患者さんのことをよく知っていますし、臨床検査技師の方にエコーを教えてもらいに行く事もあります。出来ないことがたくさんあるので、いろいろな人とのかわりで助けてもらっていると実感しています。

丸岡：患者さんのメンタルや背景などの細かな情報は私たち以上にコメディカルの方が持っていることが多いです。それをカルテやカンファレンスで共有する事でチーム医療が成立することを学びました。

研修医 対談

河野：チーム医療のためには日々の業務や多職種カンファレンスなどで他職種の方とコミュニケーションをとっていく事はとても重要ですね。

熊坂：そうですね。私は、働き始めてとてもコメディカルとの距離が近いということを感じました。小規模な病院だからかもしれません。週1度、研修医のための勉強会も医師だけではなく、コメディカルスタッフが担当したり病院全体で研修医を指導してくれています。

汐田総合病院は地域とのつながりも強いですね。

河内：当院はいわゆる地域医療を担う病院なので、患者さんは皆さん地域の方です。子どもから大人まで多くはcommon diseaseですが、高齢の方は複数の疾患を抱えている方が多いです。そのため、患者さんを総合的・包括的に診るプライマリ・ケアの勉強ができると思います。

丸岡：汐田総合病院のグループは診療所や老健施設もあり、在宅にも力を入れています。患者さんが地域に、家に帰る流れを研修のうちから見れるのもいいですね。

熊坂：僕たち研修医は、研修の一環として地域の方に向けた学習会の講師をおこなったり、地域の健康祭りで医療相談を担当したりする機会もありました。研修医は地域の健康増進活動も学びます。



北里大学卒
丸岡 誉
医師



大分大学卒
河野 万希子
医師

河野：私はもともとヘルスプロモーションに興味があったので、地域の患者さん向けに病気や健康についての話をする機会がもてて楽しかったです。

河内：どうやったら病気のことについて興味を持ってもらえるのか、正しい知識を伝えられるのか、診療に繋がるところも多いですね。コミュニケーションやプレゼン力も試されました！

丸岡：働き始めてから病気は生活と切り分けられないと感じることも多くて・・・病院の外に出て地域の人と触れ合ったり、地域を見てもみることも重要ですね。

ワークライフバランスについてはどうですか？

熊坂：退勤は科によってバラバラです。残って仕事や勉強をする日もあれば、定時に帰る日もあります。自分のスケジュールでメリハリをつけて働いています。

河内：休みの日は自然豊かなところを散歩したり、大学時代の友人と美味しいお店にご飯を食べに行ったりしてオフを満喫しています。横浜や川崎、東京へもアクセスしやすいので、学会や旅行へ行く時などに便利です。有給休暇や夏休みも比較的、取りやすいと思います。

医学生さんに一言お願いします。

全員：まずは一度、病院実習に来て汐田総合病院の雰囲気を感じて欲しいですね。ぜひお待ちしております！！



横浜市立大学卒
河内 友里
医師

研修の基本方針

1. 専門性にとらわれることなく、全ての医師に求められる基本的・総合的な臨床能力を身に付けた医師を養成する。
2. 日常の医療活動を常に学術的に検討するとともに、新しい医学の成果を謙虚に学び、医療内容の充実と向上に結び付けることができる医師を養成する。
3. チーム医療を理解し、関連職種と良好な連携の中で、医療の責任者としての指導と援助を行える医師を養成する。
4. 広く社会・医療情勢に目を向けて医師としての社会的責任と使命を自覚し、患者の命と人権を守ることのできる医師を養成する。
5. 後継者育成のため、医学生や後輩研修医、関連職種の指導援助ができる医師を養成する。

初期研修プログラム例

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	内科※ 1 24 週						神経内科 13 週				救急科 9 週	
2年次	外科 9 週		地域医療※ 2 8 週		整形外科 9 週	小児※ 3 4 週	産婦人※ 4 4 週	精神※ 5 4 週		選択※ 6 20 週		
備考	※ 1：導入期、プライマリ・ケア研修を含む ※ 2：（うしおだ診療所 or うしおだ在宅クリニック）＋（久地診療所 or 川崎セツルメント診療所 or 生協戸塚病院）で研修可能 ※ 3：済生会横浜市東部病院、川崎協同病院で研修可能 ※ 4：済生会横浜市東部病院で研修可能 ※ 5：済生会横浜市東部病院、神奈川病院で研修可能 ※ 6：総合診療科、脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科、外科、整形外科、救急科は当院で研修可能 ：循環器内科、消化器内科は川崎協同病院で研修可能 ：呼吸器内科は大田病院で研修可能 ：小児科は済生会横浜市東部病院、川崎協同病院で研修可能 ：産婦人科は済生会横浜市東部病院で研修可能 ：精神科は済生会横浜市東部病院、神奈川病院で研修可能											

指導医メッセージ 「地域に根ざした病院で、地域医療を担う医師を育てたい」

当院は地域のかかりつけ病院として臓器別にとらわれずに総合的に患者さんを受け入れています。脳卒中からプライマリ・ケア、高齢者の複合疾患、在宅支援医療、各科との境界疾患を受け持ち、消化器内科では上部下部内視鏡、EMR、ESD 検査を中心に外科とも連携しながら、様々な消化器疾患の治療にあたっています。神経内科では急性期の脳血管障害から回復期リハビリテーション及び在宅医療まで継続した医療が特徴です。地域に根ざした高機能ケアミックス病院として、急性期から回復期、そして在宅医療まで主治医として責任を持つこと、医学的観点だけではなく、患者さんの社会背景、生活背景を掴み必要に応じた医療・介護をマネジメントできる医師として育成することを目指としています。また、当院の医局は、全ての医師が同じフロアに属する総合医局であり、科と科の垣根が低く、日常的に各科の医師へのコンサルトや上級医から指導を得られることができるので、この環境を積極的に活用してもらうことで、様々な知識や技術を身に付けることが可能です。横浜での地域医療に関心がある医学生の皆さん、ぜひ一度私たちの医療を体験しに来てください。



汐田総合病院 神経内科
科長 佐野 正彦
高知大学 2008 年卒

プライマリ・ケア研修（PC 研修）～地域医療に求められる総合力を身に付ける～



汐田総合病院は HPH（健康増進拠点病院）ネットワークにも加盟しており、研修医は地域の患者さん向けに健康講座も行ないます。

・他職種と診る

チーム医療における他職種との連携を大切にしています。プライマリ・ケアで重要な全身管理の必要性を歯科・口腔外科から学ぶ研修や、ソーシャルワーカー、検査科など様々な職種との研修を行います。多職種カンファレンスは日常的におこなわれており、チーム医療の土台を作っていきます。

汐田総合病院は横浜市鶴見区で長く地域の健康を診てきました。時代とともに患者さんの置かれる立場は変化し続けています。その中でどのように患者さんへアプローチしていくか、地域の健康と向き合っていくか、研修を通して学びます。

・地域を診る

現代の医療現場は病気だけではなく患者さんの背景とも向き合わなければなりません。そのため病院だけではなく診療所、介護施設、在宅などの様々なフィールドで学ぶ機会を設けています。子どもから高齢者まで多くの患者さんを診ながら地域の病院の役割、プライマリ・ケアに必要とされる総合的・包括的な視野を作ります。



研修の
Point

脳卒中研修 ～横浜市内有数の脳卒中専門医師数、豊富な症例～

高齢化に伴い神経疾患・脳卒中医療に対するニーズは少なくありません。汐田総合病院は横浜市内でも多くの脳卒中専門医と神経内科専門医が在籍しており、鑑別が困難な患者さんが他医療機関より紹介されてきます。そのため、より精細な鑑別の導き方や、希少な症例を学ぶことができます。明らかな脳卒中症状から患者さんの訴える漠然とした症状による診断まで、様々な神経疾患・脳血管障害の診断・検査・治療の習熟を目指します。

神経疾患・脳卒中における後遺症は患者さんの生活において様々な影響を与えます。初期の段階から栄養評価、リハビリテーションへの移行などトータルで患者さんを見ることができ実践力が身につきます。

週 1 回の脳神経カンファレンスでは脳神経外科や神経内科以外の医師も参加しており活発な議論が交わされています。他科をローテートしていても参加が可能で 2 年間を通し継続的に神経疾患を学べます。

そのほか症例検討会、学会発表、学会参加など積極的に行っておりよりアカデミックな研修が魅力です。

待遇

雇用形態：常勤職員、各種社会保険、厚生年金、労災、
共済制度、有給休暇あり

給与(例)：初期 1 年目 345,000 円
：初期 2 年目 365,000 円

手当：住宅手当、賞与年 2 回、直当手当、家族手当等あり
休暇：4 週 8 休、有給休暇あり、オールシーズン休暇 4.5 日、
年末年始 6 日間（12/29 ～ 1/3）他

2021年度 汐田総合病院 神経内科診療実績（一部抜粋）	
パーキンソン症候群	封入体筋炎
脳腱黄色腫症	アテトーシス型脳性麻痺
HTLV-1 関連脊髄症	イートン・ランバート症候群
頸椎性脊髄症	シャルコー・マリー・トゥース病
筋萎縮性側索硬化症	ハント症候群
ギラン・バレー症候群	レビー小体型認知症
多系統萎縮症	延髄腫瘍
重症筋無力症	球脊髄性筋萎縮症
進行性核上性麻痺	歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	常習性吃逆
脊髄小脳変性症	前頭側頭型認知症
多系統萎縮症の増悪	視神経脊髄炎
多発性硬化症	大脳皮質基底核変性症
ミラーフィッシャー症候群	転移性脳腫瘍
睡眠時無呼吸症候群	特発性捻転ジストニア
線条体黒質変性症	脳表ヘモジデリン沈着症
多発性筋炎	白質脳症
皮質性小脳萎縮症	急性散在性脳脊髄炎

JCEP（卒後臨床研修評価）認定（2019 年 5 月）



JCEP とは、臨床研修病院における研修プログラムや研修状況の評価を行ない 研修プログラムの改善及び、よい医師の養成を目的として設立された団体です。汐田総合病院は「地域密着型の医療機関として地域医療に貢献」「指導医のみならずコメディカルスタッフも熱心に指導する体制にあり、地域住民も研修医を暖かくサポート」との積極的な評価を得ました。